

宇佐神宮の楽しみ方

宇佐神宮の境内は広大です。
ゆっくり、森林セラピーを楽しみながらのお参りを



下宮参りにゃ片参り
「下宮参りにゃ片参り」と言われ、両方に参拝するのが基本とされています。参拝の順番は、上宮と同じです。

お参りの前に手水舎へ!
手水舎ではまず左手、右手の順にお水で清めます。つぎに左手に水を受け、口をすすぎ、また左手を清めます。最後に柄杓(ひしゃく)をたて、残った水で柄杓の柄を清めます。
※柄杓に直接口をつけないようにしましょう。

国宝が展示されてます!
仏教の法要や読経の際に使用する楽器(仏具)「孔雀文磬」が展示しております。
開館は、日曜・祝日9:00~16:00

神様の通り道があります!
最初にくぐる鳥居や、門をくぐる前に軽くお辞儀をしましょう。また参道や、鳥居の真ん中は神様の通り道「正中」なのでなるべく歩かないようにしましょう。

ご参拝のあとは、宇佐神宮仲見世へ。
宇佐のお土産、お食事処です。ご参拝の後、ご休憩にお立ち寄り下さい。

お願い事をするときには・・・
お願いをするときは、まずは神様にご挨拶と感謝の気持ちを伝えます。そして神様にわかりやすいように、心の中で、名前と住所をお伝えしてから、お願いをしましょう。

- まずは上宮にお参りを。
- あとは自由に散策を。(外宮・呉橋・能楽堂近辺散策など)

..... 宇佐神宮のパワースポット紹介。(三ヶ所)



本殿奥の大楠 樹齢800年のご神木
ご神木を触りながら1周するとご利益があるらしい。

願掛け地藏 一生に一度しかお願いできないお地藏様
西参道を呉橋に向かい、呉橋手前を左に上ります。奥の方に大小二体のお地藏様がありますよ。誰にも見られずに、一回きりの願い事をすると...とか。



夫婦石 上宮に行く途中の階段の中にあるのです。
この石を両足で踏むと、子宝に恵まれる...
恋人とうまくいく...夫婦円満...、の言い伝えが?

宇佐神宮には国宝が2つ!! 上宮本殿「八幡造り」



八幡造の成立は平安時代。前面に人間の空間(仏寺でいう外陣)、奥に神の空間(二神殿(仏寺の内陣))という二つの空間が存在します。
この八幡造は、二棟の切妻造平入の建物が前後に接続した形で、両殿の間に一間の相の間(馬道)がつき、その上の両軒に接するところに大きな金の雨樋(あまどい)が渡されています。椽皮葺(ひはだぶき)で白壁朱漆塗柱の華麗な建物が、横一列に並んでいます。奥殿を「内院」・前殿を「外院」といいます。内院には御帳台があり、外院には御椅子が置かれ、いずれも御神座となっています。御帳台は神様の夜のご座所であり、椅子は昼のご座所と考えられています。神様が昼は前殿、夜は奥殿に移動することが八幡造の特徴です。また、八幡造のもととなったのは、二之御殿の脇殿・北辰神社の建物ではないかといわれています。

孔雀文磬(くじゃくもんけい)



磬(けい)とは、仏教の法要や読経の際に使用する楽器(仏具)で、「へ」の字型の金属製の板を吊るし、小型の撞木で叩いて音を出します。中央には梵鐘のように蓮華を模った撞座があり、その左右には模様を描かれ、その模様により「孔雀文磬」「宝相華文磬」とよばれ、現在5点が国宝に指定されています。
宇佐神宮には、奈良時代から明治時代まで神仏集合で、境内には東西塔を揃えた大伽藍の神宮寺「弥勒寺」がありました。この孔雀文磬の裏面に、「承元三季(己/巳)/八月五日(丙/寅)/奉鑄之(撞座) 弥勒寺金堂/御誓自京遣之/法印祐清」の銘文があり、承元3年(1207年)に祐清という法印(僧の位)が、弥勒寺の金堂に施入したことがわかっています。

詳しくは
↑こちらへ

18のQRコードで 深みのある旅を
地図と道しるべの18のQRコードでいろんな情報を楽しんでください。